

Meeting 8. 4. Action Programmes for Reducing Mortality	E. E. Arriaga (Argentina)	B. Ourlanis (U. S. S. R.)
<i>SESSION 9: DEMOGRAPHIC POLICIES</i>		
Meeting 9. 1. Population Policies Affecting Fertility	H. Gérard (Belgium)	M. Concepcion (Philippines)
Meeting 9. 2. Population Policies Affecting Internal Migration and Urbanization	H. Wander (Fed. Rep. of Germany)	M. Concepcion (Philippines)
Meeting 9. 3. Population Policies Affecting International Migration	C. Price (Australia)	M. Concepcion (Philippines)
Meeting 9. 4. Long-Term Growth Population Targets	M. Macura (Yugoslavia)	M. Concepcion (Philippines)

(黒田俊夫記)

国際連合「人口と家族に関するシンポジウム」

1974年開催予定の世界人口会議のための討議材料を得ることを目的として、1973年から国際連合主催の四つのシンポジウムが開催されているが、今回の Symposium on Population and the Family はそのうちのひとつで、1973年8月6日から15日まで、ホノルルの East-West Center の Jefferson Hall で開催された。

参加者総数は33名で、国際連合事務当局関係者7名、East-West Center 関係者1名を除く25名は14か国および WHO 本部からの参加者であった。14か国の内訳は、Chile, Egypt, Hungary, Indonesia, Iran, Israel, Italy, Jamaica, Japan, Nigeria, Spain, United Kingdom, USA および USSR である。日本からは本研究所人口政策部政策科長小林和正技官が参加した。これらの参加者はほとんどすべて、人口学、社会学（特に家族社会学）あるいは社会人類学の専門家である。

シンポジウムの役員構成は次のとおりであった。

DIRECTOR	Mr. Léon Tabah, Director Population Division United Nations
CO-DIRECTOR	Mr. James A. Palmore Assistant Director East-West Population Institute East-West Center, Honolulu
CHAIRMAN	Mr. C. Chandrasekaran President, International Union for the Scientific Study of Population Rue Forgeur, 5 4000 Liege, Belgium
VICE-CHAIRMAN	Mr. G. J. A. Ojo Head, Department of Geography and Dean, Faculty of Social Sciences

GENERAL RAPPORTEUR

TECHNICAL SECRETARY

University of Ife
Ile-Ife, Nigeria
Miss Jean H. Thompson
Chief Statistician
Office of Population Censuses and Surveys
London, England
Mrs. Gwendolyn Johnson Acsádi
Population Affairs Officer
Population Division, United Nations

日程にしたがい議題をのべれば次のとおりである。

8月6日(月)

1. 開会演説 国際連合人口部長 Léon Tabah および1974年世界人口会議事務総長 Antonio Carrillo-Flores
2. 役員選出
3. 会議日程の採択
4. 近代化、人口および家族：文化的歴史的展望(序論)

8月7日(火), 8月8日(水)

5. 家族周期に対する社会文化的、経済的および人口学的諸要因の影響

8月9日(木)

6. 家族生活に対する家族周期変動の影響

8月10日(金)

7. 家族および社会に関する人口その他の諸政策

8月13日(月)

8. シンポジウムの総括
9. 報告の採択

8月14日(火)

9. 報告の採択

8月15日(水)

9. 報告の採択
10. 閉会

シンポジウムの討議のための基礎資料として、このシンポジウムのために特に専門家に委嘱して作成された諸論文ならびに国際連合側より提出された Background Paper が用いられたが、それを列挙すれば次のとおりである。

1. Cultural development, population and the family (E/CONF. 60/SYM. II/3)
2. The modernization of family reproductive behaviour (E/CONF. 60/SYM. II/4)
3. Change and transition in family structure (E/CONF. 60/SYM. II/5)
4. Socio-cultural patterns, family cycle and fertility (E/CONF. 60/SYM. II/6)
5. Demographic factors influencing the family cycle (E/CONF. 60/SYM. II/7)
6. Reproductive behaviour and the family cycle (E/CONF. 60/SYM. II/8)
7. Facteurs spécifiques et stratégie globale de la fécondité dans les sociétés de type industriel (E/CONF. 60/SYM. II/9)
8. Rationality and irrationality in the field of population (E/CONF. 60/SYM. II/10)
9. Population and other public policies for the family-society (E/CONF. 60/SYM. II/12)

10. Demographic trends in the world and its major regions, 1950-1970 (E/CONF. 60/BP/1)
11. Population and education (E/CONF. 60/BP/6)
12. Health aspects of population trends and prospects (E/CONF. 60/BP/7)
13. Women's rights and fertility (E/CONF. 60/BP/11)

(小林和正記)

ユネスコ主催「人口変動と教育計画とに関する 専門家地域セミナー」

開発途上国における教育計画を進展させるに際して、人口の急速な増加と構造変化とが強い制約条件になっていることはよく知られているが、逆に教育レベルが向上すれば、それは人口問題に対処する努力を大いに促進することが期待されている。このような人口と教育との間の相互関係を認識したうえで、両者の関連を検討し、教育計画担当者が人口変動の問題にどう取り組んだらよいかの方法を開発しようということを目的として、国際連合教育科学文化機構（ユネスコ）は1973年9月10～18日、バンコックにアジア各国の代表、人口および教育の専門家、オブザーバーを招待して、表題のような会議を開催した。

参加者は加盟12か国のうち10か国から14名の代表（バングラデシュ、インド、インドネシア、イラン、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、スリランカ、タイ）、リソース・パースン12名、国連機関の代表4名、その他の国際機構・民間組織・タイ政府のオブザーバー12名、合計42名であった。日本からは政府代表として、文部省大臣官房調査統計課浅木森利昭課長補佐、リソース・パースンとして、本研究所人口政策部推計科長濱英彦技官が参加した。

会議の課題はトピック1から9まで区分され、このうちトピック8は全体会議ののち、2つのワーキンググループに分れて討論が行なわれた。その他はすべて全体会議であった。各トピックの題名は以下のとおりである。

- トピック1 人口変動と教育計画：討論のためのフレーム
- トピック2 アジア諸国の人口の現状とすう勢
- トピック3 人口政策と教育政策：アジア諸国の展望
- トピック4 アジア諸国における教育の動向
- トピック5 アジアにおいて人口変動が社会経済・教育上の発展に及ぼす影響
- トピック6 同上：事例研究
- トピック7 農村・都市間人口移動における教育上の動機と意義
- トピック8 教育計画担当者が取り組むべき人口課題
- トピック9 セミナーの今後の課題についての結論と勧告

会議に提出された文書は、country statements 10, working papers 17, background papers 8, 合計35であり、その題名は以下のとおりである。

Working Papers

- | | | |
|---------|-----------------|---|
| Topic 1 | UNESCO/PDEP/2-1 | “Population Dynamics and Educational Planning: A Framework for Discussion”, by Unesco Secretariat |
| Topic 2 | UNESCO/PDEP/3-1 | “The Demographic Situation in the ECAFE Region”, by ECAFE Secretariat |
| Topic 3 | UNESCO/PDEP/4-1 | “Population and Education Policies in Perspective” Country Statements for: Bangladesh |
| | “ ” /4-2 | India |